

2025 年 11 月 4 日

「公益信託 ENEOS 水素基金」2025 年度 助成対象者の決定について
～水素エネルギーによる持続可能な社会の実現に向けて～

ENEOS 株式会社（以下、ENEOS）は、ENEOS が設立した「公益信託 ENEOS 水素基金（運営委員長：北川進 京都大学理事（研究推進担当）・副学長、特別教授、受託者：三井住友信託銀行）」の 2025 年度助成対象者を次の 6 名に決定したことをお知らせいたします。

(敬称略)

石山 智大 (いしやま ともひろ)	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 研究戦略本部 CCUS 実装 研究センター 合成燃料製造・評価研究チーム 研究チーム長
盛満 正嗣 (もりみつ まさつぐ)	同志社大学大学院 理工学研究科 教授
土井 康太郎 (どい こうたろう)	国立研究開発法人 物質・材料研究機構 主任研究員
田中 俊輔 (たなか しゅんすけ)	関西大学 環境都市工学部 教授
本倉 健 (もとくら けん)	横浜国立大学 大学院工学研究院 教授
鳥屋尾 隆 (とやお たかし)	北海道大学 触媒科学研究所 准教授

ENEOS は、脱炭素に向けた水素社会の早期実現に貢献することを目的に、2006 年 3 月に本基金を創設しました。本基金は、水素供給に関する研究助成に特化した公益信託としては我が国初のものであり、水素供給に関する「独創的かつ先導的な基礎研究」に対し、年間総額 5 千万円（1 件あたりの上限 1 千万円）の研究助成金を今後約 10 年間にわたり安定的に交付することが可能な規模を有しています。

本年度は、62 件の応募の中から、本基金の運営委員会による厳正な審査を経て、上記助成対象者を決定しました。研究助成金贈呈式は 11 月 14 日（金）に開催いたします。

ENEOS は、独創的かつ先導的な基礎研究への助成を通じて、水素エネルギー社会の早期実現に貢献してまいります。

<添付資料>

1. 2025 年度 助成対象者および研究テーマ
2. 「公益信託 ENEOS 水素基金」の概要

以 上

2025 年度 助成対象者および研究テーマ

第 1 分野＜水素製造技術＞

いしやま ともひろ
石山 智大 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 研究戦略本部 CCUS 実装研究センター
合成燃料製造・評価研究チーム 研究チーム長)

“300℃で作動可能な革新的水蒸気電解セルの開発”

もりみつ まさつぐ
盛満 正嗣 (同志社大学大学院 理工学研究科 教授)

“水素製造のための超低過電圧水素発生触媒の開発”

第 2 分野＜水素貯蔵・輸送に関する技術＞

どい こうたろう
土井 康太郎 (国立研究開発法人 物質・材料研究機構 主任研究員)

“水素・腐食・応力からなるトリニティマップ技術による高強度鋼の水素脆化起点予測”

第 3 分野＜CO₂固定化・削減技術＞

たなか しゅんすけ
田中 俊輔 (関西大学 環境都市工学部 教授)

“ゲート開閉型吸着を引き起こす無機ゼオライトによる高効率 CO₂ 分離回収”

もとくら けん
本倉 健 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授)

“シリコン還元剤と金属ナノ粒子触媒による CO₂ 変換反応の開発”

とや お たかし
鳥屋尾 隆 (北海道大学 触媒科学研究所 准教授)

“機械学習を用いた二酸化炭素からのプロピレン合成触媒開発”

以 上

「公益信託 ENEOS 水素基金」の概要

信託目的	地球環境と調和したエネルギーである水素エネルギーの供給に関する基礎研究への助成を行い、もって水素社会実現に貢献することを目的とする
信託財産	約 6 億円（2025 年 9 月末現在）
年間助成金額	総額 5 千万円以内とする（1 件あたりの上限は 1 千万円とする）
助成する研究	水素エネルギーの製造・輸送・貯蔵および CO ₂ 固定化に関連する技術分野で、独創的かつ先導的な基礎研究を対象とする
助成対象者	大学や公的研究機関等、営利を目的としない国内研究機関に所属し、「助成する研究」に合致する研究を行う者
募集・選考方法	公募とし、当公益信託の運営委員会にて審査する
委託者	ENEOS 株式会社
受託者	三井住友信託銀行
主務官庁	経済産業省

<公益信託について>

公益信託とは、委託者が、財産を一定の公益目的のために信託銀行（受託者）に拠出し、設定した公益信託（公益信託契約）に従って、信託銀行がその財産を管理・運用し、公益のために役立てる制度であり、奨学金の支給、自然科学・人文科学研究への助成、自然環境保護活動への助成、国際協力・国際交流促進など、様々な金銭給付型の公益事業に活用されている。

なお、公益信託の設定にあたっては、主務官庁の許可が必要となる。

